



オクラの管理



経済部
営農販売課
営農指導係
大田 亮也

圃場の準備

・土質はあまり選ばないが、直根性のため耕土が深く、排水性の良い有機質に富んだ土質がよい。センチウに弱いので、ネマトリンエース等で土壌消毒を行いましょう。

追肥

・1番果の着果を確認したら、追肥を開始しましょう。以降は、草勢をみて葉面散布や通路施肥を行いましょう。

施肥基準 (1a 当たり)

	肥料名	施肥量
基肥	良質堆肥	200 kg
	苦土石灰	12 kg
	苦土重焼燐	4 kg
	BB48号	6 kg
追肥	NK2号	6 kg

摘葉

・収穫開始と同時に収穫果の葉を残して、下節位は摘葉しましょう。
・収穫後半、草勢が低下し芯止まり状態になった場合、摘葉を控え、草勢回復に努めましょう。

病害虫防除

・以下の病害虫が発生しやすいため、初期防除を心掛けましょう。
アブラムシ (特に5～6月) 灰色かび病 (梅雨期の花びら)
うどんこ病 (5月、梅雨明け以降)



収穫

- (1) 収穫適期は開花後6～10日で、莢長9～11cmで収穫
- (2) 後作の準備を考慮し、収穫終了時期は各自判断しましょう。
- (3) オクラには小さなトゲがあり、『かゆみ・かぶれ』が起こりやすいので、肌の弱い人は長袖、手袋等で対策をしましょう。



ゴーヤの管理



西之表支所
営農販売課
営農指導係
長田 祐二

管理作業

・棚上では、弱いつる、花芽のないつる、込み合ったつる等の整理を行い、つるが込み合わないようしましょう。

定植

・鉢土が見える程度の深さで定植し、深植えしない。
・活着促進のため、株元に液肥を散布しましょう。

摘果

・節成り品種のために、成り過ぎ注意。低節位に着果しすぎると棚部分の着果が減る傾向にあるため、場合によっては摘果を行いましょう。

追肥

・雌花が咲き始めたら、草勢を見て追肥をする。
・根を痛めるので、中耕は行わない。
・土壌の乾燥や地温抑制、雑草防除のため、敷わらをする。



収穫

- (1) 収穫が遅れると品質低下につながるため、適期収穫を心がけましょう。

